

慢性B型肝炎

①概要

B型肝炎ウイルスは、血液・体液を介して感染するウイルスです。

以前からの母子感染は減り、近年は性交渉などによる感染が増加しています。

成人がB型肝炎ウイルスに感染すると、約90%は自然に鎮静化しますが、

約10%は感染している状態が持続し、慢性肝炎、肝硬変へと進行します。

肝硬変の方だけでなく、ALT値正常なキャリアの方や慢性肝炎の方にも肝細胞癌が発生することがあります。

②症状

慢性肝炎では、多くの方が無症状です。倦怠感を訴える方もいますが、

慢性肝炎に気づくことはほとんどありません。

慢性B型肝炎では、急性増悪という肝機能の急激な悪化が起こることがあり、

倦怠感、食指不振、黄疸などの症状が出現することがあります。

さらに重篤な劇症肝炎を発症した場合の死亡率は77%と高率です。

慢性B型肝炎

③検査方法

血液検査では、肝胆道系酵素、B型肝炎ウイルスマーカーなどを調べます。また、腹部超音波検査などの画像検査を定期的に行い、肝臓の状態、癌の合併の有無について評価をします。胃食道静脈瘤が疑われる場合は、胃カメラを行います。

④治療方法

B型肝炎の治療薬は、内服薬の核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビルなど）と、注射薬のペグインターフェロンがあります。この2つの薬に関しては、個々の症例の病状、肝臓の状態、活動性など、様々なことを考慮して決定します。

核酸アナログ製剤の治療期間は定まっておらず、長期間内服する必要があります。

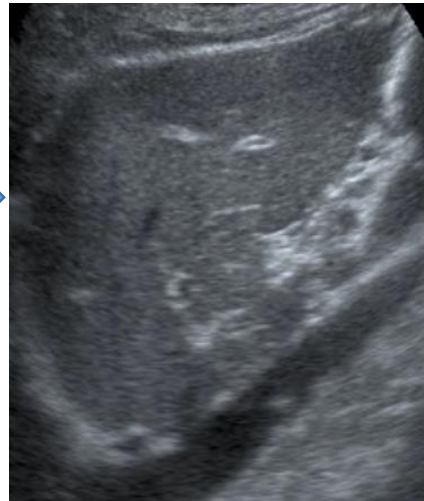
【慢性肝炎と肝硬変】

慢性肝炎とは、肝臓に炎症が起きている状態が6ヶ月以上続いている状態のことです。
慢性肝炎が進行し、硬く縮小してしまう状態を肝硬変といいます。

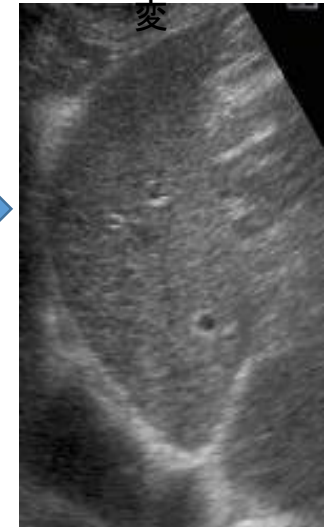
正常



慢性肝炎



肝硬
変



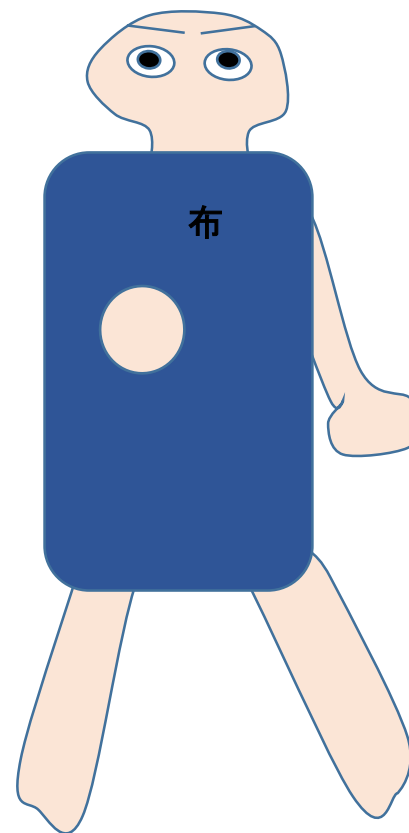
慢性肝炎や肝硬変の状態をみるため、
または肝障害をきたす原因を調べるために、
肝生検を行うことがあります。

- 肝生検

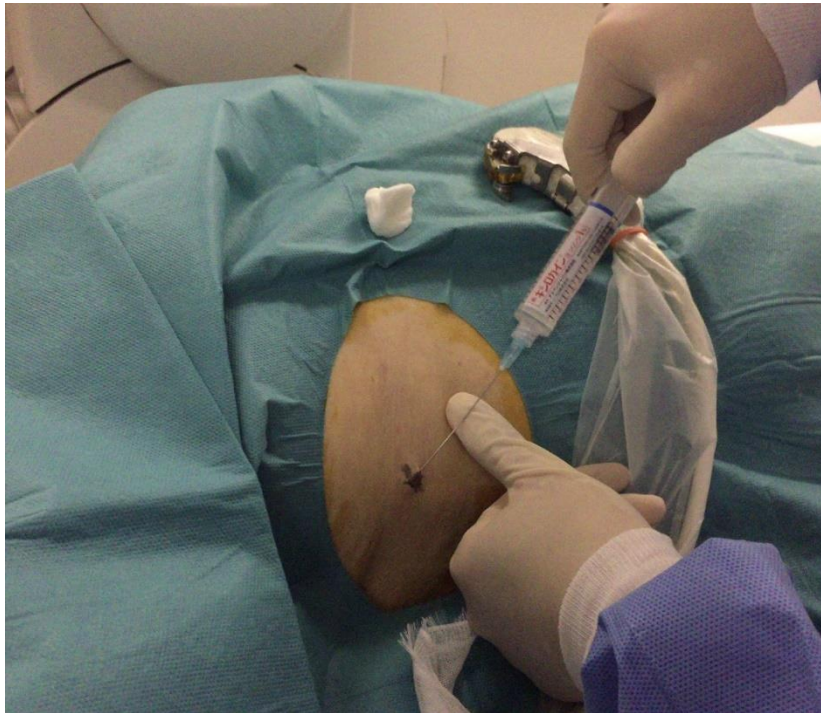
①まず、超音波をあてて、刺す位置を決めます。



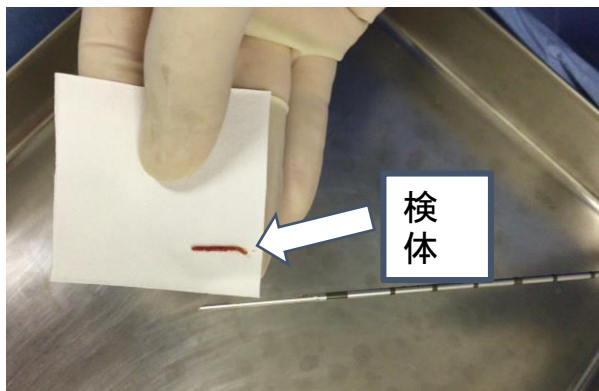
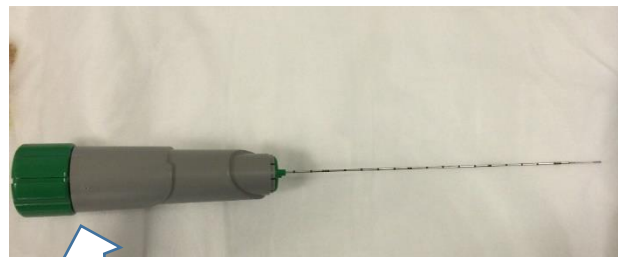
②消毒をして布を広げます



③局所麻酔をします.



④超音波を見ながら針を刺していきます。



⑤針で採取した検体を提出します。